



2012～2013 年度
国際ロータリー会長

田 中 作 次

Weekly Report Niigata



2012～2013 年度
新潟ロータリー会長

下 岡 正 八



奉仕を通じて 平和を

2012～13 年度 国際ロータリーのテーマ

新潟 RC 11 月第 2 例会 (2012.11.13) No.2968

(1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2) 下岡 正八会長挨拶

言葉の限界

人間は経験を記号化する種であります。記号を使用して考える能力を持っています。これは、最も優れた人間特徴の一つです。しかも、記号を用いることで人間には不可能なことを可能に表現することができます。つまり、脳やものごとの本質は非言語なのです。

言語は、生物体のコミュニケーションの手段(媒体)でしかないのです。

A・マレービアンらは 1967 年の研究報告で、コミュニケーションにおける言語の成分(役割)は7%、音声 35%、表情 55%であるといっています。つまりバーバルは7%、ノンバーバルは 93%なのです。私は、93%の研究者です。

我国はテスト中心社会で、教育状況の中で言語情報が丸暗記されることにより、非言語情報と結びつかなくなるので、社会に出てからそれらの知識は何の役にもたたなくなっているのです。

つまり現代社会で頭が良いとは、このようなことなのです。7%の言語情報の中で東大に合格、不合格とさわぐのです。99 の国公立大学、私立大学、卒業後は皆同じ 93%内の戦いです。しかし、社会では国公立出を賢いとしているだけです。国家公務員、国試合格者が権威主義を強調していますが、7%の内でしかないのです。この7%の言語情報をどれだけ暗記したかの量の多さは、学力であって能力ではありません。

本来の教育は、今ある社会にどう対応するかではなく、これから来る時代にどう対応できるか、といった人間をつくることです。

私は、誤った社会制度の中で正しい行動をとれないのです。

(3) ビジターの紹介

・松本 英明君(浪江 RC)

(4) ロータリーの友紹介(佐野晃之広報委員)

(5) 委員会報告

・第 4 5 回米山功労クラブ感謝状の披露

(6) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(樋熊 紀雄委員長)

佐野 晃之君 白勢 仁士君

鈴木 滋弥君

米山奨学会寄付発表(武田 博之副委員長)

徳山 啓聖君 竹石 松次君

青少年育成基金寄付発表(宇尾野 隆幹事)

樋熊 紀雄君

(7) ニコニコボックス紹介(横山 芳郎委員)

・武宮 健二郎 本日、午前中、県庁にて北越銀行、丸福証券、親和証券共同販売のトキ応援ファンドによるトキ保護募金第3回寄付金294万円の贈呈式が取り行われました。先日第7回の放鳥がありました。来春の2年連続のひな誕生を楽しみにしています。ニコニコです。

・佐野 晃之君 本日は広報・会報・雑誌委員として2012年11月号ロータリーの友の発表をさせていただきました。まとまりのない発表をしてしまいましたが、第1回目ということで皆様にはニコニコと許していただきたく、今後とも精進したいと思います。併せて11月は結婚記念日ということでお祝いをいただき、ありがとうございます。結婚して23年になりますが、単身赴任の身となり、家内にはあらためて感謝しております。とは言え、私がこのようなことを申し上げているとは彼女は知る由もなく、私一人がニヤニヤ、いやニコニコさせて頂きました。

(8) 幹事報告(宇尾野 隆幹事)

11月17～18日 地区大会が開催されます。17日出席の方は、名札を例会終了後、各自お持ち願います。18日出席の方は当日の新潟クラブ受付付近で幹事よりお受け取り下さい。

(9) ロータリー財団月間に因むお話

得永哲史地区財団委員会奨学金委員長

(10) 本日の出席率 65.12 %

(2 週間前メーク後 81.71 %)

11月20日の例会予定

卓話「新潟州構想について(～検討報告書の概要～)」

新潟市大都市制度推進課長 高田 章子氏

新潟ロータリークラブ会員専用ホームページアドレス

<http://www.niigataarc.jp/member/>

会員専用ページログイン情報

ユーザーID niigata パスワード rcrarc

ロータリー財団月間に向けて —「未来の夢計画」を実現しよう—

新潟ロータリークラブ

ロータリー財団委員長 樋熊紀雄

ロータリー財団創設第二世紀に向けて財団のプログラムが大きく変更になりました。新しい制度は「Future Vision Plan 未来の夢計画」と呼ばれています。

財団の歴史は、1917年アーチ C. クランフ (RI 会長、1916-1917) が、「全世界的な規模で慈善・教育・その他社会奉仕の分野でよりよきことをするために基金をつくろう」と。そして、1928年、その基金を「ロータリー財団」と名付けました。

1931年信託組織となり、1983年、米国イリノイ州法令の下に非営利財団法人となりました。

「未来の夢計画」は、世界531地区のうち100地区が2010-11年度から試験段階に入り、2013年7月から世界全地区で新制度に移行することになります。

「未来の夢計画」には

1. 財団の使命に沿って、プログラムと運営を簡素化すること
 2. ロータリアンが関心を寄せている世界の優先的ニーズに取り組むことによって、最大の成果が期待できるロータリアンの奉仕活動に焦点を絞ること
 3. 世界的目標と地元の目標の両方を果たすための資金を提供すること
 4. 意思決定権をさらに地区とクラブに移行することによって、地区レベルとクラブレベルで、ロータリー財団が自分たちのものであるという自覚を高めること
 5. ロータリー財団の活動に対する理解を深め、ロータリーの公共イメージを高める
- の目標が掲げられています。

その計画を作製するに当たって5つの優先事項を掲げています。

1. プログラム運営の簡素化
2. 未来の夢計画に沿ったプログラム
3. 地区あるいはクラブレベルで「自分たちの財団」と自覚すること

4. 目標達成のための十分な資金と人材の提供

5. 計画を支える効果的な方策の開発

これらは、①「プログラムの簡素化」と②「地区の裁量権の拡大」の2点に要約されると思われます。

① では、6つの重点分野、すなわち

- i. 平和と紛争予防/紛争解決
- ii. 疾病予防と治療
- iii. 水と衛生設備
- iv. 母子の健康
- v. 基本的教育と識字率向上
- vi. 経済と地域社会の発展

であり、発展途上国を対象とした人道的プログラムで、これらの分野に力点を置くということです。

ワールドファンド (WF) ,からも資金が拠出されるグローバル補助金は、最低3万ドルという大きなプロジェクトに限定され、持続的な効果のあるプロジェクトを実現しようというものです。

② は、従来は、DDFの最大20%が地区の裁量権の範囲であったものが、DDFの50%

へと増大することになり、裁量権の拡大と共に、地区の資金管理に関する責任が増大したことになります。

「世界でよいことをしよう」、「ロータリアンが健康状態を改善し、教育の支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること」

この計画は、単に会員から寄付を集め、財団が使うという視点では寄付行為の実績が見えてきません。当クラブがこの「未来の夢計画」プロジェクトを立ち上げ、RIの資金を使って、世界で良いことをすることであり、そのために

#1プログラムへの寄付

1. ロータリー財団への寄付

① 一人100ドルの年次プログラム基金への寄付の奨励

② 恒久基金寄付：1000ドル/クラブ会員1名

③ 使途指定寄付：ポリオ・プラス、ロータリー東日本大災害復興基金への寄付の奨励等をお願いいたします。

現在：

- 1) 社会奉仕委員会「交通遺児への支援」
- 2) ミャンマー「疾病予防と治療」

新潟大学大学院国際環境学 斎藤先生の卓話

3) ボリビア「寄生虫駆除」

等を考慮しながら関係各位と共に資料作成・準備・協議開始を考えている所です。

「夢を現実なものに」

よろしくお願ひします。